十二鎮

発行日　令和　５年　６月１５日／ 第１０３号
発　行　土沢地域づくり会議 代表　新田繁夫
〒028-0115
花巻市東和町安俵６区 53 番地
ＴＥＬ　0198-42-3255　ＦＡＸ 0198-42-4234

令和４年度
コミセン利用者 11,608 人
学習の幅限りなく…

令和４年度のコミセン利用者は 11,608 人。コロナ禍の中でも学習意欲は堅持されていました。

利用団体数は優に 85 を超え、官公庁はもとよりサークルや地域活動を推進している団体が、ワクチン接種や健診、会合や趣味活動等に利用。

コーラスグループはハーモニーを楽しみ、和の心をたしなむ日本舞踊、社交ダンスで軽快にステップ、人気の太極拳では呼吸を整えリフレッシュ、極めつけは手作りミソ作り、ミソ玉に思いを込めピシッ…と、学習の幅は限りなく広く、絵手紙に生花に、クラフト作り、三味線に将棋等々多彩で多くの皆さんが日常生活をエンジョイしていたようですね。

生け花教室

太極拳教室

令和４年度　東和コミュニティセンター（土沢振興センター）利用状況

学級・講座・研修		官公庁／市役所含む		各種団体		その他／左記以外		合　計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
7	88	58	4958	660	6047	22	515	747	11608

話題になった元土沢小学校校舎

市政懇談会開かれる･･･光明も…

６月１日（木）市当局から八重樫和彦副市長等関係者 13 人が来館、地区民 25 人が出席し市政懇談会が開かれました。申し入れていた赤坂団地の用地売却やのぼり旗設置にかかる事故への補償等々、日頃疑問に思っている事案について膝を交えて懇談、光明が見えた回答もあって、とても有意義でした。

土沢地区の人口と世帯数

令和５年４末日現在

行政区	日本人住民						外国人住民			
	世帯数	男	女	計	出生	死亡	世帯数	男	女	計
土沢第１（新地・百ノ沢）	126	170	180	350	0	0	0	0	1	1
土沢第２（鏑町）	136	137	171	308	0	1	0	0	3	3
土沢第３（中町・下町）	151	172	181	353	0	1	9	2	8	10
土沢第４（駅前・上町）	175	177	210	387	0	0	5	5	0	5
土沢第５（前郷・八日市場）	136	180	190	370	0	0	0	1	0	1
土沢第９（六本木）	248	298	335	633	1	1	17	8	9	17
合計	972	1,134	1,267	2,401	1	3	31	16	21	37

※この表は花巻市住民登録人口集計表を参考に作成しています。

各種講座の日程決まる。計画的に参加しリフレッシュ！

月	日	曜日	行事名	内容・摘要
7	2	日	ふれあいハイキング	一関市みちのくあじさい園
7	30	日	第 13 回グラウンドゴルフ大会	和田多目的広場
8	7	月	タイルアート教室	コースター作り
8	21	月	こびる作り教室①	みょうがの葉焼き
9	4	月	こびる作り教室②	かまやき・豆銀糖
9	5	火	スマホ教室	東和コミュニティセンター
9	27	水	男の料理教室	米粉ピザ
10	2	月	フロアカール練習会	東和コミュニティセンター
10	5	木	自然探訪教室	八幡平後生掛温泉研究路
10	15	日	土沢地区防災訓練	東和コミュニティセンター
10	29	日	第 13 回スポーツ交流会	東和体育館
11	2	木	秋田県種苗交換会視察研修	秋田県潟上市
12	3	日	親子クッキング	クリスマスケーキ
1	23	火	手作りみそ教室	東和コミュニティセンター

胸骨圧迫…
１分間に 100 回、テンポよく

救急車がくるまでに…

花巻では、心肺停止の救急車出動 100 人当たり１か月後に退院できるのは 3 件程度。これは、全国平均より少ない数字で、大きな病院が少ない・搬送されるまで距離がある等の地域特性によるもので、救命率をあげるためにも、救急車が来るまでの心肺蘇生法を的確に実施することが求められる…と言うことで、花巻消防署でこの程、救命講習を実施。振興センター職員等 10 人が受講した。

そのほか、歴史講座・男の料理教室・文化財巡り等を企画予定です。
※内容は変更になる場合があります。詳しくは配布されるチラシをご覧下さい。

ふる歴コーナー

東和の先人

ホームスパン作家 及川（おいかわ） 全三（ぜんぞう）

花巻市東和町土沢出身の及川全三は、故郷の農家で副業として作られていた「ホームスパン」に美術的な価値を与え、工芸品にまで高めた人物です。

大正 13 年（1924）頃、東京の慶応義塾幼稚舎に勤務していた全三は、柳宗悦と出会い、無名の作家による手仕事の日用品に美が宿るという「用の美」を追及する民藝運動に感銘を受けます。その後、全三は同舎を辞職し、植物染料による羊毛の染色研究に専念するようになります。

染色技術を完成させた全三は、昭和８年（1933）頃に帰郷し、故郷のホームスパンにその技術を導入します。全三の染色羊毛で織られたホームスパンは、まさに美を備えた日用品となりました。

全三は生涯を通じてホームスパンの制作と指導に尽力し、成島和紙の染色を行ったほか、政治活動にも身を投じ、郷土東和のために尽くしました。全三の紡いだホームスパンの伝統は連綿と続いており、各工房には現在も機の音が響いています。（敬称略）

※コミセン内に併設されている「ふるさと歴史展示室」から東和の歴史を紹介します。　≪展示パネル引用≫